

なく、ディートリッヒ・ボンヘッファーの最も重要な、そして多分、最も神学的に意義のある書物であり続けるのである。

「もし注意深くエッチングされた型が書物を整えていないとしても、ボンヘッファーの把握していた中心的概念の意識とすべてのキリスト者の生活に与えるその衝撃の自覚から、内的な統一が生まれ出ているのである²⁴⁾」。

そしてこの内的な統一のゆえに、ボンヘッファーの『倫理学』は、今日のわれわれにとって、今も、導きの光としての価値と重要性を持ちつづけているのである。

24) W. Kuhns : In Pursuit of Dietrich Bonhoeffer. p.119.